

令和 7 年度

甲信越北陸口腔保健研究会

第 36 回総会・学術大会プログラム

本会は「第 47 回日本口腔衛生学会学術大会」と併催されますので

「第 47 回日本口腔衛生学会学術大会プログラム集」もご参照ください

開催日 令和 7 年 5 月 17 日（土）

会 場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

万代島ビル 6 階会議室

新潟市中央区万代島 6 番 1 号

T E L : (025) 246-8400

F A X : (025) 246-8411

大会長：小松崎 明（日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座 教授）

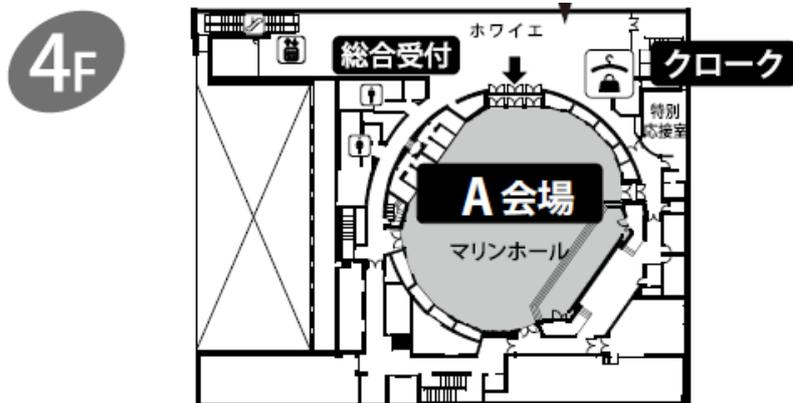
日 程：12:15～13:15 幹事会
13:20～14:05 総 会
14:10～14:30 ポスター討論
14:40～16:40 シンポジウム（フッ化物応用委員会共催）
16:45～17:00 受賞ポスター発表・発表奨励賞授与
17:00 閉 会

参加費：無料（研究会受付で参加登録し、参加証をお受け取りください）

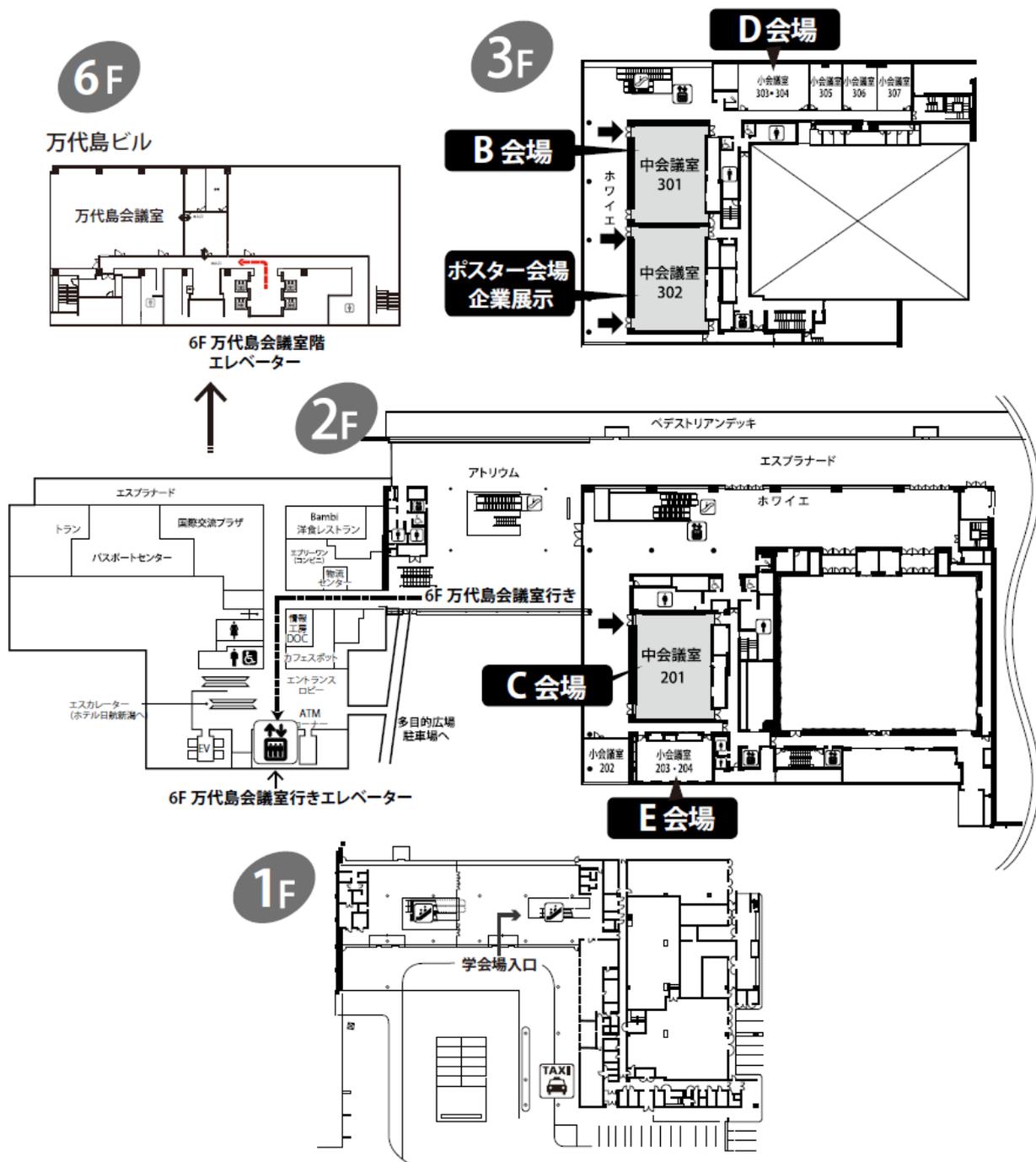
懇親会：研究会会員も当日申込みで親学会の懇親会にご参加いただけます
懇親会会費：11,000 円（定員制のため受付終了となる場合があります）
会場：新潟グランドホテル3階悠久 18時15分～19時45分

【ご参加の皆様へ】

- 参加登録は親学会と同じく朱鷺メッセ4階総合受付の「研究会受付」で8:30より行います。会場では第47回日本口腔衛生学会学術大会（以下、親学会とします）以外の会場使用もあり、朱鷺メッセ、万代島ビル間の連絡通路も複雑な構造となっております。会場案内や親学会のプログラム集や下図をご参照ください。
- 日歯生涯研修事業は、研究会参加者も親学会への参加として登録されます。Eシステムになっていきますので、ICカードをご持参下さい。
- 年会費未納の方、および新入会員の方は「研究会年会費受付」でお申し出下さい。
- 会場内では携帯電話はマナーモードに設定して下さい。
- 研究会会員も親学会のランチョンセミナー以外のプログラムに参加できます。
- 会場によって混雑した場合には、親学会会員の入場が優先される場合があります。
- クロークは朱鷺メッセ4階にあります親学会のクロークをご利用下さい。
- 駐車場は「万代島ビル駐車場（ビル内）」または「万代島駐車場（ビル外）」をご利用下さい。（駐車券の発行はありません。日航ホテル用地下駐車場は使用できません）
- 研究会当日の夜に、朱鷺メッセコンベンションホールで有名アイドルグループのライブが開催されるため、会場通路、会場周辺では混雑が予測されています。ライブ終了前に万代島地区から移動されることをお勧めします。
- 研究会の受付（年会費受付も併設）は4階総合受付の中に設置されます。



朱鷺メッセ内部の構造図（研究会会場は万代島ビル6階です）



研究会ポスター発表も親学会と同じ朱鷺メッセ3階302会議室に展示になります。
研究会と親学会フッ化物応用委員会との共催シンポジウムは4階A会場マリンホールで開催されます（14:40～16:40）。

【ご発表の皆様へ】

- 発表形式は、ポスター形式のみとさせていただきます。ポスターの規格は以下の通りです。
- ポスターパネルは縦 210cm ×横 90cm です。

- ポスターは5月17日9:30~10:00に朱鷺メッセ3Fポスター会場の「研究会ポスター用のパネル」に掲示を行ってください。
※ 重複発表ポスターは親学会指定のパネルに掲示してください。
なお、演題名・氏名・所属および発表者の顔写真（縦18cm×横13cm程度）を各自ご用意ください。



※ 発表者の名前の前に、○印を付してください。

- ポスターには目的・方法・結果・考察・結論・参考文献などの必要事項を簡潔にわかりやすく記載してください。
なお、文字などの大きさは自由ですが、2m離れた場所からでも明確にわかるように作成してください。
- ポスター討論時間（14:10~14:30）に発表者はポスター前に立って質疑、討論のご対応をお願いします。
- ポスターを貼る押しピン（画鋏）等は、発表者各自でご用意願います。
- 閉会后、ポスターの撤去をお願いします。会場内に残っているポスターは事務局にて処分いたします。
- 発表後、演題申し込みと同じアドレスに、400~800字程度の事後抄録を提出して下さい。事後抄録は口腔衛生学会雑誌に掲載されます。
- 発表奨励賞を受賞された方は、表彰授与後に5分間程度のポスター内容の説明を実施していただけます。
- 今回の研究会では口演発表はありません。全てポスター発表です。

一般演題 **ポスター討論：14:10 ~ 14:30** **ポスター会場（3階：302 中会議室）**

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにより保健行動が変化した可能性についての検討

○岩田采夕¹⁾、長谷川 優²⁾、小林彩乃¹⁾、田中桜良¹⁾、
圓山史織¹⁾、元井志保²⁾

¹⁾ 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科

²⁾ 日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界中に拡大し、世界はパンデミックに陥った。私たちの日常生活のみならず、心理状況に関しても影響を与えた。

そこで、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって変化した歯科衛生士学生の心理状況や生活様式が、口腔保健行動に影響をもたらしたのか調査し、その心理状況の変化を明らかにすることを目的として本研究を行った。

対象は令和6年度の日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科学生で、第1学年、同第2学年、同第3学年、計151名であった。学生のうち同意を得られた者に、「コロナの影響で変化したセルフケアやマスク着用行動」についてアンケートを実施した。自由記載の内容は、テキストマイニング

の手法により分析した。なお、本研究は日本歯科大学新潟短期大学倫理審査委員会の承認（NDUC-120）を得て行った。

本研究の結果から、新型コロナウイルス感染症は日常のセルフケアに影響を与えていなかった。一方で、新型コロナウイルス感染症とマスク着用に関連性が認められた。歯科衛生士学生は新型コロナウイルス感染症によって審美性による関心から、マスク着用に心理的な影響を受けたことが明らかになった。

2. 歯科用ユニットにおける拭掃状況の可視化について

○圓山史織¹⁾、池田裕子²⁾、岩田采夕¹⁾、小林彩乃¹⁾、
田中桜良¹⁾、宮崎晶子²⁾

¹⁾ 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科

²⁾ 日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科

本研究では、歯科ユニットにおける拭き残し部位を可視化し、拭掃する者や清掃用品の量と拭掃時間が拭き残しの発生にどのように影響を与えるのかを検討することを目的とし、歯科衛生士と歯科衛生士学生による拭掃状況を調査し、その違いを比較した。

対象は歯科衛生士10名（DH群）と実習歴8ヶ月の病院実習生12名（S群）とした。対象部位は、ブラケットテーブルやライトハンドル、サクションなどの9か所とした。対象者には診療後の歯科ユニットの後片付けという設定のもと、普段通りの方法で拭掃させた。計測者は使用したペーパータオルの枚数と薬液のプッシュ回数、拭掃時間を測定した。実験後に撮影した画像をもとに拭掃状況の評価を3段階に分けて点数化した。

DH群とS群では、拭掃状況の合計点数やペーパータオルの枚数、薬液のプッシュ回数、拭掃時間において両群の間に有意な差は認められなかったが、対象者全体の拭掃状況の合計点数と拭掃時間に正の相関が認められた。DH群とS群の間における統計学的検討の結果より、S群は8ヶ月の病院実習において有資格者と同等の拭掃に関する技術が身についたと考えられる。

以上により、歯科ユニットの拭掃状況を可視化することが可能であり、病院実習を一定期間経験することで実習生は有資格者と同等の拭掃ができることが示唆された。

3. 新潟県新発田市における成人歯科健診結果の推移分析

—現在歯数のパーセンタイル曲線の変化—

○八木 南¹⁾、押木千恵¹⁾、長島節志²⁾、山崎太亮²⁾、
河内康之²⁾、小松崎 明^{3,4)}、鴨田剛司⁴⁾、小野幸絵⁴⁾

¹⁾ 新発田市健康推進課

²⁾ (一社) 新発田市歯科医師会

³⁾ 日本歯科大学新潟短期大学

⁴⁾ 日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座

新発田市で実施されている成人歯科健診に参加した平成30(2018)年度2,923人、令和5(2023)

年度 2,953 人の匿名化処理データを用い、両年度の現在歯数のパーセンタイル曲線を作成し比較した。また、令和 5 年データを用い、2 項ロジスティック回帰分析により地域や年齢等を調整した上で口腔状況（現在歯 20 歯未満と歯周炎（PD 有）の重複を 1，対照を 0 とした分析モデル 1）と判定区分（要精密検査を 1，対照を 0 とした分析モデル 2）を目的変数とした分析を実施し、各変数の調整済みオッズ比を得た。

その結果、現在歯数は平均値、55 歳以降の中央値で増加が確認でき、年齢階級間で減少傾向が異なる点等が明らかとなった。2 項ロジスティック回帰分析の結果からは、モデル 1 の調整済みオッズ比では「堅いものが食べにくい」、「発音が聞き取りにくい」の値が大きく有意となっていた。逆に定期的な歯科受診の値は 1 未満だった。モデル 2 の結果では、口腔清掃状態や喫煙の値が大きく、歯磨き回数は 1 未満で有意な値となっていた。

これらの結果から、今後の保健指導に際して留意すべき点を明らかにできた。

4. 銀イオンの口腔内細菌および口腔内試料への抗菌効果の解析

○根津英之^{1,2)}、三原正志³⁾、内田啓一²⁾、吉田明弘¹⁾

1) 松本歯科大学微生物学講座

2) 松本歯科大学病院初診室（総合診断科・総合診療科）

3) 松本歯科大学歯科矯正学講座

【緒言】

銀イオンは抗菌作用をもつ金属イオンだが、口腔細菌や口腔内試料に対する抗菌作用の報告は少ない。今回我々は、各種口腔細菌、ヒト歯肉縁上プラーク細菌およびヒト唾液細菌への銀イオンによる抗菌効果を解析した。更に唾液細菌叢の銀イオン感受性菌の同定を試みた。

【材料・方法】

液体希釈法により各種口腔内細菌、およびヒト歯肉縁上プラーク細菌と唾液細菌(松本歯科大学研究等倫理審査委員会承認 許可番号 0377 号)を各種濃度の銀イオンを含む Brain Heart Infusion (BHI)培地で、24 時間嫌気培養を行い、最小発育阻止濃度(MIC)を解析した。次に採集したヒト唾液細菌を MIC (4.0 ppm)の銀イオンの有無で培養し、次世代シーケンスを用いた細菌叢解析を行った。

【結果】

口腔レンサ球菌に対して銀イオンの MIC は 2.0-4.0 ppm の範囲であった。ヒト歯肉縁上プラーク細菌および唾液細菌の MIC は全て 4.0 ppm であった。細菌叢解析で銀イオンによる有意な抗菌効果を認めたものは、*Veillonella* 属, *Aggregatibacter* 属, *Fusobacterium* 属, *Campylobacter* 属, *Kingella* 属, *Gemella* 属であった(Wilcoxon の符号付順位検定 $p<0.05$)。

【結論】

銀イオンには口腔レンサ球菌に対して MIC=2.0 ppm から 4.0 ppm の範囲で、歯肉縁上プラーク細菌や唾液細菌に対しては MIC=4.0 ppm で発育抑制効果があることが明らかになった。唾液細菌叢には特定の銀イオン感受性菌が存在することが示された。

5. 事業所内歯科診療所にて実施した歯科健診事後措置による行動変容

○大久保光¹⁾, 曾山善之²⁾, 金子 昇¹⁾, 竹原祥子³⁾, 小川祐司³⁾

1) 新潟大学医歯学総合病院予防歯科

2) 曾山デンタルクリニック

3) 新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野

北陸地方のある金属加工事業所では、2年毎に全従業員対象の歯科健診を実施している。本報告では、2023年度春季歯科健診の結果が「要指導」の従業員を対象に、事業所内歯科診療所において歯科衛生士が実施した事後措置前後のアンケート結果を報告する。

健診結果が「要指導」かつ口腔清掃指導を希望した者は346名で、辞退者48名を除いた298名(男性229名, 女性69名)の従業員が事後措置を受けた。2023年8月から2024年12月にわたり、歯科衛生士2名が、対象者1人あたり60分間の口腔清掃指導と全顎スケーリングを実施した。また、指導前と指導半年後に口腔衛生習慣に関するアンケートの回答を得た。

アンケートのうち、「歯ブラシ以外の口腔ケア用具を使用しているか」という質問に対して、「使用している」と回答した者は指導前89名(30%)だったのに対し、指導の半年後は283名(95%)と有意に増加していた(McNemar検定, $p < 0.001$)。また、指導半年後のアンケートのうち「指導の内容を実行しているか」という質問に対して、「している」「半分くらいしている」と回答した者は合わせて295名(99%)であった。

本調査より、歯科健診後事後措置の事業所内歯科診療所における実施は、従業員の口腔清掃に関する行動変容を効果的にもたらす可能性が示唆された。

重複発表(親学会ポスター番号:P-35)

6. 地域茶の間でのオーラルフレイル予防講座の取り組み

○小林彩乃¹⁾, 小松崎 明^{2, 3)}, 小野幸絵³⁾, 鴨田剛司³⁾,
池田裕子⁴⁾, 松田知子¹⁾

1) 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科

2) 日本歯科大学新潟短期大学

3) 日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座

4) 日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科

日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座では、従来から地域コミュニティ協議会が設置する地域茶の間での活動を重視し、継続的に地域高齢者との交流を図ってきた。今回はオーラルフレイル予防講座に参加した124人(57歳以上の自立高齢者, 男性44人, 女性80人, 平均年齢74.1歳)に対して実施した質問紙調査の結果と、唾液アミラーゼモニター測定(希望した23人に実施)の結果について報告する。本研究は倫理承認(NDUC-119)を得て実施した。

質問紙調査の結果、「唾液が出にくい」との自覚がある者は22人(17.7%)だった。唾液腺マッサージを知らなかった者は74人(59.7%)で、講座を受講した後に「唾液腺マッサージをしようと思った」と回答した者は111人(90.2%)だった。口腔体操と唾液腺マッサージ講座に関して「有益だった」と回答した者は114人(91.9%)で、唾液アミラーゼ測定値(平均値 49.5 ± 24.9)に

興味を持つ者も多かったので、今後も実施方法には工夫が必要と思われた。

地域茶の間での唾液腺マッサージ教室などの活動は、オーラルフレイルの予防等に寄与すると示唆された。

親学会・研究会共催シンポジウム 14:40 ~ 16:40 A会場(4階:マリンホール)

シンポジウム3 : 歯科公衆衛生活動の未来へ

座長 相田 潤 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科公衆衛生学分野)
濃野 要 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

シンポジスト

東京都江戸川区教育委員会が主体となる「フッ化物洗口」について

講師 木村 美由紀 (江戸川区教育委員会事務局学務課給食保健係)

新潟県におけるフッ化物洗口の推移と今後の方向性

講師 葭原 明弘 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

わが国における水道水中フッ化物の歯科保健的意味合い

講師 筒井 昭仁 (NPO 法人ウェルビーイング, NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会)

水道水フロリデーシオンの必要性を健康格差の観点から考える

講師 松山 祐輔 (東京科学大学歯科公衆衛生学分野)

フッ化物応用に関する臨床並びに公衆衛生的な政策の展開～過去・現在・未来～

講師 田口 円裕 (東京歯科大学歯科医療政策学)

2024 年からスタートした健康日本 21 (第 3 次) では、ライフコースを通じて健康を増進させる社会環境の質の向上が強調されています。多部門の連携によりなされる社会環境の整備は、ヘルスプロモーションの中核を担うものであり、この流れを取り入れた健康政策の実施が求められています。

2019 年に Lancet 誌は、口腔保健特集を出版し、その中でう蝕が最も多い疾患であることを報告しました。日本においても、減ったことばかり強調されがちですが、う蝕は他の疾患と比べると現在でも多く、小児期や成人期における高額な歯科疾患の国民医療費負担につながっています。さらに、歯科医院への受診が難しいような高齢者における根面う蝕の増加も課題となっています。

この今日でも重要な課題に対して、歯科では社会環境を通じた公衆衛生活動が古くから展開されてきました。その中でも集団フッ化物洗口や水道水フロリデーションは、健康日本 21 でも提示されている「自然に健康になれる環境づくり」として、う蝕とその健康格差を減少させる効果を有しています。

本シンポジウムではこうした歴史と現在の状況、そして未来を見据え、木村美由紀先生からは東京都におけるフッ化物洗口について、葭原明弘先生には日本の歯科公衆衛生活動としてのフッ化物応用について、筒井昭仁先生からは日本における水道水フロリデーションについて、松山祐輔先生には注目される健康格差対策としてのフッ化物応用について、田口円裕先生には公衆衛生政策としてのフッ化物応用についてお話をいただきます。このシンポジウムを通して、誤解も多い公衆衛生とフッ化物応用の理解が深まり、未来の人々のより良い口腔の健康実現の一助となることを願ってやみません。

会場周辺案内図



新潟駅より 約1.5 km	バス	：約15～20分 万代口バスターミナル 佐渡汽船行き 「朱鷺メッセ」下車
	タクシー	：約10分
新潟空港から 約7 km	徒歩	：約25分
	タクシー	：約20分
自動車	新潟中央I.C料金所	：約20分 (高速)
	紫竹山I.C	：約15分

駐車場



●万代島ビル駐車場（1階・M2階）
管理運営者：日本パーキング㈱
T e l . 025-246-2171

100円/20分

*急速充電器、普通充電器を各1台設置
(当駐車場利用の方は無料)

*夜間22時～翌朝8時/1,200円

*ホテル日航新潟宿泊者は1,000円
(14時～翌11時)

●万代島駐車場（上図A～E）
指定管理者：㈱新潟メッセ
T e l . 025-246-8400

入場から最初の60分無料

以降 100円/30分

*1日(24時間)最大 1,500円

※ 研究会当日は朱鷺メッセ周辺の駐車場の混雑が予測されます

※ 万代島ビル（ホテル日航）駐車場は駐車時間が長くなると料金が高額になりますのでご注意ください

総会・学術大会に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町 1-8

日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座 担当：鴨田

TEL：025-211-8125 FAX：025-266-3567